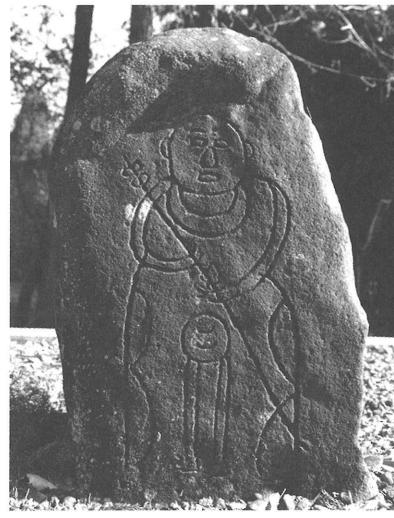


## 線刻仏と磨崖仏

伊吹山の東側は砂岩で構成されています。この山を地元では弥高山ともよびます。その麓には、砂岩を使った、板碑状の石仏や五輪板碑が多くこされています。ユーモラスで、一種独特の線刻で地蔵像が描かれていて、県内では珍しい石造物です。悉地院(上野)の裏にある境内墓地に、線刻地蔵とともに何基かの線刻の一石五輪塔があり、藤川の共同墓地にも写真のような線刻地蔵が並んでいます。これらの彫刻は、決して熟練の石工の腕にかかったものではなく、手先の器用な村人が彫り上げたものなのでしょう。

磨崖仏は、崖など岩肌が露出しているところに仏像や仏像を表す梵字など仏教関係彫刻を施したものであります。人里離れた岩山や川岸にみられ、山岳信仰との関連があります。滋賀県



▲線刻仏

では南近江にみられます、米原市の堂谷には、弘法大師が彫ったという梵字石があり、柏原岩ヶ谷には、地名の由来となった大梵字石があります。

(高橋順之)



▲大梵字石

## 情報 BOX

- ◆米原市教育委員会では、下記の図録を発行しました。  
**『石塔建立 一まいばら石造物100』**  
※3月6日におこなった講演会・企画展の図録です。
- ◆米原市教育委員会では、下記のマップを発行しました。  
**『鎌刃城・松尾寺山トレッキングマップ』**  
※地域とともに作成した、山城と山寺を結ぶルートマップです。
- ◆米原市教育委員会では、下記のパンフレットを発行しました。  
**『学校のまわりの宝物①～③』**  
※埋蔵文化財を中心に、伊吹・大原・米原各学区のようすを紹介しています。
- ◆伊吹山文化資料館では、下記の冊子を発行しました。  
**『伊吹山文化資料館年報17』** ※平成26年度の活動を紹介しています。
- ◆米原市農政課では、下記のパンフレットを発行しました。  
**『琵琶湖干拓資料館』** ※入江内湖や大中の湖の干拓事業で出土した遺物を展示している資料館の解説書です。
- ◆米原市上野自治会では、下記の冊子を発行されました。  
**『伊吹山物語 一神の山とあゆむ上野人一』**  
※500点の写真を使って伊吹山と地域の歩みを紹介しています。
- ◆非売品、在庫の無いものもあります。  
お問い合わせは、伊吹山文化資料館 (☎0749-58-0252)

## ◆◆編集後記◆◆

今年度前半、米原市は「山城のまち」でした。そして、後半は「石造物のまち」■佐加太も前号は山城を紹介し、今回は石造物を取り上げました■遺跡の発掘がほとんどない昨今。せっせと先輩方が積み上げてこられた成果を、シンボや冊子で紹介しています■地道に、市内に眠る素材を掘り下げ、公開して、地域とともに活用し、守っていただくなそれが、文化財担当の役割だと思っています。さて、今年は異常なほど雪がない冬でした■これ幸いと11月から年末年始。カメラと野帳とメジャーをもって市内の墓地を歩き回りました■ときには、無縁墓地の山に登り、誰かもわからない墓石にちょっと失礼して足をかけさせてもらって■「今日はどこぞこの墓地へ行ってくるわ」と、嬉々として出かける後姿に、「なにも連れて帰ってこないでねえ」と声をかける資料館の職員さん…(シャンギリッ子)

## 米原市文化財ニュース

### 佐 加 太 第43号

発行 平成28年3月25日  
編集 米原市教育委員会  
〒521-0292 滋賀県米原市長岡1206  
米原市教育委員会歴史文化財保護課  
TEL0749(55)4552  
印刷 ビッグバードデザイン株式会社



佐加太とは、「和名抄」東急本の坂田郡の訓を引用しました

## 石造物のまち・まいばら

### まいばらの石塔① 宝篋印塔

近江の石の文化財(石造物)の数と種類はおびただしく、ほとんどの集落では、「石のお地蔵さん」として、村の入り口や路傍にある身近な存在です。集められたお地蔵さんの中には、地蔵菩薩や阿弥陀如来を刻んだ石仏のほかに、丸や四角、三角の形状をしたものがあり、これらは、五輪塔や宝篋印塔、なかには層塔とよばれる石塔がばらばらになった部材です。石塔は、それぞれの集落に生きた人々の暮らしや、信仰の心を探る手がかりです。また、一般の農山村には、歴史を物語る古文書もなく、郷土史の空白を埋める大切な資料にもなります。

伊吹山や靈仙山に、多くの山寺が展開した米原には、仏教の教義にそった信仰に伴う石の文化財があります。また、京極氏や大原氏の拠点であり、交通の要衝であることから、歴史上の人物に関わる石造物もあります。さらに、数百年にわたって石の加工をおこなってきた歴史をもつ曲谷集落があるのも米原です。「生産地」と「消費地」をもつ米原は石造物のまちなのです。

宝篋印塔は中国を起源とし、宝篋印陀羅尼経を納めたことからこの名がありますが、多くは、大日如来を囲む四仏を刻む密教の塔として、追善、墓塔、供養塔として建立されました。笠の四隅の馬の耳のような偶飾が特徴で、近江では基礎の格狭間に三本の蓮をあしらいます。市内には、中世でも古い段階の宝篋印塔があり、京極満信の墓(長岡/市指定)のように、集落のなかになにげなくとけ込んでいます。また、京極氏歴代の宝篋印塔が並ぶ「京極家墓所」(国指定)は、中世から近世にかけての大名墓として全国唯一のものです。



▲京極満信塔

市内の宝篋印塔の優品を紹介しましょう。朝妻神社の星川塔(朝妻筑摩/市指定)は、天野川の七夕伝説に関わる石塔で、装飾性が乏しく、基礎の輪郭の刻みが浅く、幅が狭い点など古い様相がみられ、県内での初期宝篋印塔の展開や地域史を語る貴重な資料です。平野神社の宝篋印塔(弥高/市指定)は、もともと伊吹山中腹の弥高寺跡にあったと伝えられています。欠けることなく完全に整ったスリムな石塔です。弥高寺跡にも宝篋印塔があり、やや寸詰りで一部を欠きますが、北近江最大級のものです。

鎌倉幕府の初期、公家政権の実権を握った後鳥羽上皇は、建久10年(1199)と承久2年(1220)の二度、北近江を訪れています。市内にはその足跡がのこり福田寺に供養塔があります。北畠具行は、鎌倉幕府倒幕を目指した後醍醐天皇の重臣で、元弘の乱(1331)で敗れ柏原で斬首されました。その墓(清瀧/国指定)には貞和3年(1347)の銘文があり、死後16年後に介錯を務めた田児六郎左衛門尉により建てられたとされます。光明院の宝篋印塔(加勢野/市指定)は、大原氏第三代時綱の墓とされます。近くの志賀谷薬師堂の背後にも一基の宝篋印塔があります。春のひととき、市内の石塔を巡ってみてはいかがでしょうか。(高橋順之)



▲星川塔



▲平野神社塔



▲大原時綱塔

## まいばらの石塔① 五輪塔

室町時代以降、墓石として建立された五輪塔は、共同墓地や境内墓地、辻堂や路傍などいたるところに、多くは4つの部材がばらばらになった状態でみられます。その質と量は、近江に生きた庶民の厚い信仰と経済力を感じさせます。五輪塔は、仏教で万物の構成要素とされる空、風、火、水、地の五大思想を、上から宝珠形、半円形、三角形、円形、方形で組み合わせた塔です。16世紀以降には一石五輪塔や石に刻んだ五輪塔板碑が盛行し、室町時代の墓石として、市内の至るところで見られます。

平野神社の五輪塔(前頁)は、「大永八年(1528)僧實佑」の刻銘があり、典型例といえそうです。妙覚寺(小田)にも、文永2年(1265)、正安2年(1300)、永享7年(1435)の年号をもつ一石五輪塔(市指定)があります。そのほか、後鳥羽上皇の一の宮皇子や西行、大谷吉継、今井氏や新庄氏などの五輪塔があります。

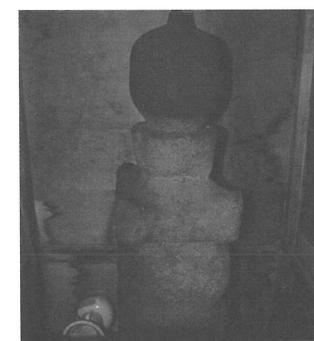
元弘3年(1333)、鎌倉幕府の六波羅探題北条仲時

は、鎌倉に逃れるために東山道を北上しますが、番場(米原市)で先帝亀山上皇の皇子を担ぎ出した北近江の武士団や伊吹山の僧兵、山賊がなくてを阻み、総勢432人が蓮華寺にて自刃しました。境内には一行の墓とされる五輪塔が並び、仲時の五輪塔は、蓮華寺を望む六波羅山の山頂にあります。そのほか、後鳥羽上皇の一の宮皇子や西行、大谷吉継、今井氏や新庄氏などの五輪塔があります。

(高橋順之)



▲北条仲時塔



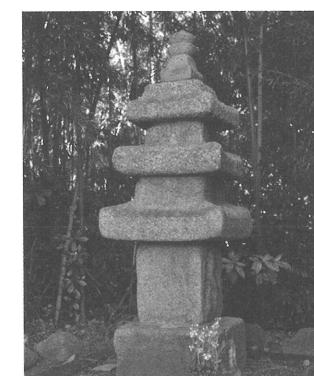
▲大谷吉継塔

## まいばらの石塔③ 層塔・多宝塔

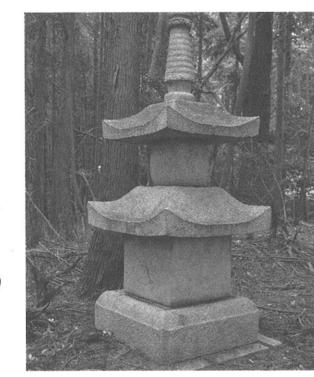
層塔は仏教伝来に伴って木造塔が伝わり、石造塔も伽藍の一部を構成する仏塔として、奈良時代に始まり、近江では鎌倉時代中期から盛んに造立されました。塔身に四方佛を刻み、三・五・七・九・十三重があり、無限に広がる数字として仏教で尊重されます。

市内の層塔では、松尾寺(上丹生)と、その登拝口にあたる八坂神社(三吉)に優品がのこっています。松尾寺の九重塔(重文)は、旧松尾寺本堂跡の背後にあり、基礎の背面に「文永七(1270)庚午年八月日」の銘があります。ほかの3面には、格狭間の両側に蓮を挿した宝瓶を刻んだ古い図柄がみられる、完形の優品です。八坂神社の九重塔(市文化財)は、基礎の正面のみ格狭間に宝瓶三茎蓮を刻みます。軸部に四方佛を半肉彫りし、元亨三年(1323)の銘があります。

朝妻神社の層塔(市指定)は、現在は三層となっていますが、もとは五層か七層だったと思われます。鎌倉時代後期でも古い段階のものとされます。伊吹山四ヶ寺のひとつ太平寺の石造物として、山腹から移された大平観音堂境内の石仏・石塔群の中には、三重の層塔があります。泉明院(柏原)の本堂南の山



▲朝妻神社塔



▲永明寺山多宝塔

## まいばらの石塔④ 石幢と板碑

### 石幢

石造供養塔で、幢は「のぼり」の意味があり、寺院の須弥壇の脇に天井から下がっている旗を組み合わせた形を石で表しました。柱状の幢身と笠・宝珠からなる単制と、基礎、竿、中台、塔身(龕部)、笠、請け花、宝珠で構成された重制石幢があります。室町時代には地蔵信仰から龕部に六地蔵が彫られました。

志賀谷集落の中央番場の石幢は、6面に地蔵立像を彫り出しています。2面は合掌像で他は珠と杖を持つ像です。貞享3年(1686)願主阿原氏の銘があります。大型品で、なおかつ完形品であり、近江を代表する石幢です。市内では数少なく青岸寺の石幢は織部灯籠の竿を合わせて燈籠として、名勝庭園にあります。また、常福寺では竿を失い仮堂に祀られています。

### 板碑

中世に供養塔あるいは逆修塔として造立された卒塔婆です。関東地方では、鎌倉時代初期から無数に建てられ、板状に割れる緑泥片岩が用いられています。石を板状に加工して頂部



▲白山神社板碑

を三角に切り、その下に二条の切込みをつくり、中部に梵字や仏像を表し、下方に年月日その他を刻んだものが典型とされます。近江では数少なく貴重な資料です。

白山神社の板碑は花崗岩製で、右塔は阿弥陀像と觀音・勢至の二菩薩を梵字で表しています。左塔も阿弥陀像を刻み、いずれも鎌倉時代末期頃の作と推定されています。境内には南北朝期のものと思われる宝塔の塔身や宝篋印塔の笠や基礎、豊臣秀吉の母の像とされる石仏、製作途中で放棄されたと考えられる石塔類など、中世の石造文化財の製作地として、他地域の神社では見られない独特の景観を醸し出しています。



▲常福寺石幢

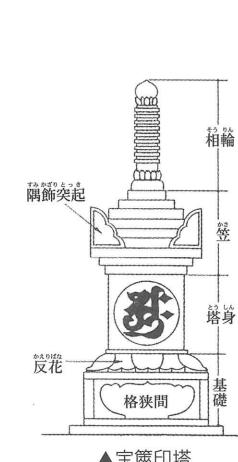


▲青岸寺石幢

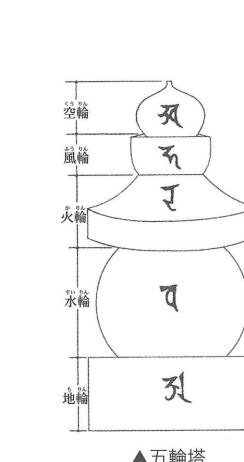


▲志賀谷石幢

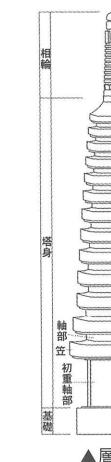
## 石塔の構造



▲宝篋印塔



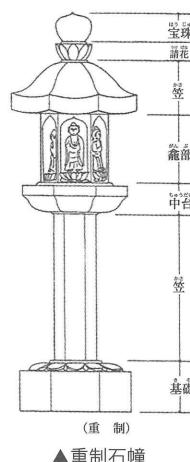
▲五輪塔



▲層塔



▲板碑



▲重制石幢

出典：『石造文化財への招待』2011 ニューサイエンス社